

## 事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和4年3月1日

公表: 令和 4年 3月1日

事業所名 ミライトジュニア高田教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		国の基準を満たしたスペースで支援を行っています。	
	2 職員の配置数は適切である	○		国の基準を満たした人員配置をしています。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		指導室等の各部屋は仕切りやドア、目印などをつわかりやすいように構造化されています。	階段を上がって2階の施設となるためご迷惑をおかけしております。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		指導室毎に消毒・清掃を行いお子様ひとりひとりに合わせた空間づくりを行っています。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		月に1度の定例会議、毎日の朝礼・終礼で業務の困り事や改善の共有と提案を図るようにしています。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			今年度のアンケート調査をもとに保護者様の意向を把握し業務改善を行ってまいります。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページで公表いたします。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者評価はおこなっておりません。必要に応じて改善いたします。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			外部研修の資料の共有や実践、また感染症対策、防災、虐待等に関する研修を行っています。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		個別のアセスメント、毎回の保護者面談をもとにニーズや課題分析を行っています。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		個別のニーズに合わせて運動面、認知面、学習面等を評価できるようにしています。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		発達支援、家族支援、地域支援ともに保護者様へ提示しその支援が実行されています。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		お子さま一人一人に合わせた支援が提供されています。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		小集団プログラムでミーティングを行い立案が出来るよう体制を整備しております。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		お子さまの今必要なプログラムを指導ごとに立案しております。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		集団目標と個別目標をお子様のニーズに応じて設定しています。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼時に確認しています。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終礼時に確認しています。	
19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		指導毎に記録を作成し評価をしています。		

20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○	指導毎の保護者面談で確認しています。	
----	---------------------------------------	---	--------------------	--

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者や担当指導員が対応しております。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		必要に応じて対応しています。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				医療的ケアが必要な児童の利用がない事からこちらの項目は該当しません。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				医療的ケアが必要な児童の利用がない事からこちらの項目は該当しません。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		児童連絡票等連携・連絡手段をとる体制があります。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		児童連絡票等連携・連絡手段をとる体制があります。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			奈良県総合リハビリテーションセンターの協力のもと助言・研修を行いました。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		新型コロナウイルス感染拡大のため外部交流を控えております。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		新型コロナウイルス感染拡大のため外部交流を控えております。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		指導毎に面談を行い共有しております。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○		令和3年度実施して参ります。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		重要事項説明、契約等は保護者との読み合わせを行うなど相互理解ができるようつとめております。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		日常生活動作や自立活動が出来るスキルの獲得を目指すとともに創作活動や余暇の過ごし方などを提供しております。また保護者へは必ず面談を行い内容提示をし同意を頂いております。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		指導毎の保護者面談で助言等を行っております。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		相談受付はいつでも受け付けており迅速に対応を行っております。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		ブログで発信いたします	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		鍵付きのロッカーや外部持ち出し時は黒塗りをするなど行っています	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		指導毎の面談でかわり方のお伝えをしています。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		新型コロナウイルス感染拡大のため外部交流を控えております。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		従業員に対して周知しております。	保護者様に周知できるように手に取りやすい場所に設置いたします。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		避難を想定した訓練等を従業員に行っています。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		初回利用時に確認を行いスタッフへの共有を行います。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		食事の提供は一切しておりません。	食品に関するアレルギーがあるお子様に対しての教材(小麦粘度等)は代替品を利用するなどに対応しております。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットの定期報告会をおこなっております。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		年に1度、また新入社員に対して都度行っております。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		記載しております。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。